墨田区立フレンドリープラザ東向島児童館

児童館だからこそできる異学年交流「フリスケ」

取組の背景・目的

今年度のはじまりに、児童館の良さは学校や学年関係なく遊べることであり、日常での関わりを大切にしていくことを職員間で共有した。その日常を通じて子どもたちの声から実現して、現在も定着しているのが「フリスケ」である。

「フリスケ」はドッジビーを使ったタスケ（３歩ドッチボール）で、東向島児童館でつくった造語である。元々はボールを使った「タスケ」をしていたが、感染症の影響でボールを使った遊びができなくなってしまった。そこで「ドッジビーを使ってタスケをやろう」と言い出したのが発端である。

目的としては異学年交流を通じて交友関係の幅を広げ、新たな仲間づくりやコミュニケーション能力の向上を目的としている。

取組の概要

場所：４階体育室
使用備品：ドッジビー
実施頻度：毎日　１回１５分、１日５回程
職員体制：体育室に配置される職員（常勤１名、非常勤１名）

工夫点・留意点

- 当たった子が待ち時間で遊びが終わらないように、適宜、「全員復活」をして遊びの満足度を高めている。
- 至近距離では強く投げないように声かけをしている。また、当てる距離に対して強いと職員が判断した場合はセーフにしている。さらに、手加減リングを付けている人には優しく投げるようにしている。
- 範囲に対して人数が少ない場合は歩数制限（※通常時は３歩）を変えている。
- ドッジビーの数やあえて復活なしなどのルールを子どもと一緒に考えて取り入れている。
- 特定の人に当てない、特定の人だけを当てることがないようにルールを設けている。

取組の効果

- 学校や学年関係なく遊べており、年下の子に対して優しくルールを教えたり、当てるときは優しくしたりする姿が見られる。
- フリスケをきっかけに体育室にあそびに来る子も増えて、交友関係の幅も広がった。
- 「ボールは当たると痛いから」と言って、体育室を避けていた子どもも参加するようになった。
- 子どもたちから「ドッジビーを２つであそびたい」、「天下（復活なしで、最後まで残っていた人の勝ち）でやりたい」など、ルールを子どもたちと考えて取り入れて展開するようになった。

課題・今後の展開

・ボール遊びが解禁されても、人気の遊びなので継続していく。
・熱中し過ぎて言動が荒くなることも見られるので、都度、声かけをして場のコーディネートをしていく。